

# まぐろから見える世界

(社)責任あるまぐろ漁業推進機構顧問 原田雄一郎

24



## ◆来年以降の 管理案作成◆

8月27日から30日まで、東京でWCPFC（中西部太平洋マグロ類委員会）の作業部会が開催される。2014年から17年に実施されるマグロ資源の保存管理措置案を作成する

の目的だ。この作業部会で作成される計画案は、12月に予定されている年次会合で審議される。この作業部会では、昨年（2012年）の年次会合で報告された「WCPFC設立以来、メバチとキハタの過剰漁獲を緩和し、漁獲能力の増加を抑制するた

## ◆容易ではない 資源管理◆

WCPFCが、このCPFCのパートナーと、島しょ国を利用して隻数の増加を正当化しようとする先進国の思惑が絡みあつて、隻数の増加は止まらない”などの意見が相次ぎ、事態の深刻さの問題の根深さをあらためて認識させられた。

# 資源、管理能力取り戻せるか

## WCPFC 来月27日から東京で部会

この作業部会の開催を決定した昨年の年次会合の報告書は、「WCPFC設立以来、メバチとキハタの過剰漁獲を緩和し、漁獲能力の増加を抑制するた

め、幾つもの決議と管理措置が採択されてきたが、それらは、漁獲

つとあると認め、いずれの魚種も漁獲死亡の削減を必要とする決

制限する措置は、多くの関係漁業者の痛みを伴う措置であるだけに、すんなりと計画に盛り込まれ得るであろうか？ これまでのWCPFCのパートナーと、島しょ国を利用して隻数の増加を正当化しようとする先進国の思惑が絡みあつて、隻数の増加は止まらない”などの意見が相次ぎ、事態の深刻さの問題の根深さをあらためて認識させられた。

## ◆作業部会は 再生し口づ鍵◆

仮に作業部会で作成された計画案が、資源の回復および安定化をもたらす実効性の高いものとなつても、年次会合で審議にかけられ



たが、それらは、漁獲

口資源に直接ダメージを与えるFADs（人

工浮き魚礁）の使用を制限する措置は、多くの関係漁業者の痛みを伴う措置であるだけに、すんなりと計画に盛り込まれ得るであろうか？ これまでのWCPFCのパートナーと、島しょ国を利用して隻数の増加を正当化しようとする先進国の思惑が絡みあつて、隻数の増加は止まらない”などの意見が相次ぎ、事態の深刻さの問題の根深さをあらためて認識させられた。

◆問題の根深さを改めて認識◆

当機構は、6月末に国内外の会員に参加を求めて、この問題について協議した。「現状のまま推移すれば、中

(毎月1回掲載)